

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

<1> 大学全体

武蔵野美術大学の造形学部（通学課程）、造形学部（通信教育課程）、大学院造形研究科（修士課程・博士後期課程）のそれぞれの教育目的は、その設置段階から、「武蔵野美術大学学則」第1条、「武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程」第1条、「武蔵野美術大学大学院規則」第1条に明記されている（資料4(1)-1、資料4(1)-2、資料4(1)-3）。それらを踏まえ、各課程において、課程修了にあたって習得すべき学習効果、その達成の為の卒業要件・修了要件は明確にされ、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が設定されている。

<2> 造形学部（通学課程）

武蔵野美術大学造形学部の教育理念は、美術を技術的専門性の習得にとらえず、総合的な人間形成をもって成るものと考え、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することにある。また教養を有する美術家養成を行なうことを理念として建学され、真に人間的自由に達するような美術教育を目指している。美術、デザイン、及び建築に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論及び応用を教授研究し、本学の理念とする人物を養成して、文化の創造発展と社会の福祉に貢献することを目的としている。

造形学部（通学課程）の教育目的は、その設置段階から、「武蔵野美術大学学則」第1条に明記されている（資料4(1)-1）。また、各学科では、学科理念・教育目標を設定しており、『履修・学修ガイドブック』に明記している（資料4(1)-4 P88-254）。

それらを踏まえ、課程修了にあたって修得すべき学習成果、その達成の為の卒業要件は明確にされ、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が設定されている。『履修・学修ガイドブック』（資料4(1)-4 P89-255）には以下のように記載されている。

[日本画学科] P89

本学科では日本独自の文化を背景に現代の多様な価値観のなかで思考し創造する専門性を持った表現者の育成を目標としています。

学位が授与されるためには以下のことが求められます。

- 日本画の基礎技術を習得し、表現に対応した技術を深めているか。
- 自己の表現について主体的に取り組み、論理的にプレゼンテーションできるか。
- 歴史や社会との関わりのなかで自己の表現の意味を考えているか。

[油絵学科油絵専攻] P100

油絵学科油絵専攻では以下のような学生に学位を与え、卒業を認定します。

- 基礎課程、専門課程を通じて主体的に作品制作に取り組み、学生それぞれの可能性を真摯に探求することで充実した自己表現を獲得する。
- 作品制作の中から派生したさまざまな表現を模索することで、美術作家、美術教育者、広域の表現者として活動していく基盤を身につける。
- 西洋美術のみならず、東洋美術、日本美術などにも幅広く理解を深め、歴史的背景をふまえた美術史と自己表現との関わりについて独自の視点を持つ。
- 美術と社会との複雑な関係性を見据えながら作品制作・研究を行い、美術そのものの理解を深めるだけでなく、社会のなかで美術の発展的なあり方に関わっていく意識を身につける。

[油絵学科版画専攻] P101

版画の歴史が積み重ねてきた伝統を重視しながらも、同時に、美術としての同時代性を追求する先進的な指導の下、より本質的な造形力に基づいた表現者としての真の創造性を、卒業制作を通して具現化できたかを第一に問う。

- 明確なテーマ設定の下、個々の問題意識を起点に、独自の視点で表現を深化させることが出来たか。
- 個々の作品における表現者としての強度を裏付ける基礎的な造形力や、具体的な技術・技法が習得されているか。
- 展示を含めて社会との関係性を認識しながら、作品空間を構築し、創作上の主張が的確に発信されているか。

[彫刻学科] P135

彫刻を基盤とした美術に関わる専門家の育成という目的において、学科における最終的な研鑽成果を問うために、卒業制作（公開展示）として次の事項について研究室教員全員で総合的に判断し評価します。

- 総合的に差異が追求され、独自な表現として深化させる力があるか。
- 表現に則した技術を深め、習得できているか。
- 主体的に課題を設定し、創作する力を身につけているか。
- 歴史性と社会との関わりを認識し、発信する視座を身につけているか。

[視覚伝達デザイン学科] P147

デザインは表現を伴うがゆえに、その社会性と自身の関わり合い方は単純ではありません。この厄介な関係を良く自覚し、理解し、社会と自身との関係の新たな枠組みを作ることが強く望まれます。各講座ではこの関係性を前提にそれぞれの領域における問題解決に取り組むこととなります。よって4年間を通して卒業制作以外の全ての授業における評価は、絶対評価によって単位が与えられます。また年次ごとに期末には合同発表会を設定し、講座での授業内容の共有をはかり同時に異なる批評の場に自らの作品を提示することにより、客観的な価値観の習得につとめることを課しています。4年間の学びの集大成としての卒

業制作では、学事としての卒業制作への対応として専任教員全員による相対評価を行うと同時にゼミごとの絶対評価を併せて行っています。

[工芸工業デザイン学科] P171

各コース、専攻によって専門性の追求および成果について評価されますが、工芸工業デザイン学科として、造形力、思考力、表現力など総合的に卒業制作に反映、集約されているかを評価します。その他、主体性をもって制作出来ていること、自身が計画、制作してきた卒業制作を正確に発表出来たかどうか、その能力を備えているかを確認し、さらに自己管理能力、社会性を備えているか、或いはその姿勢がみられるかを総合判断します。

[空間演出デザイン学科] P183

非常に自由な選択肢のもとで、多様な造形表現と個性溢れる発想を伴った空間演出に携わる人材の育成を目指すために、さまざまな実践形式による作品発表を随時行いながら、よりリアルな時代性への適合と共に、現在、過去を踏み台とした空間表現への独自性と、豊かで雄弁な創造性を評価する。

[建築学科] P199

学科理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの卒業所用単位を満たし、独自の研究テーマを獲得しながら、実社会や大学院で主体性をもって活動する力量を備えているかを評価します。

卒業制作・研究については、指導担当教員全員が揃うなかで行われる成果品のプレゼンテーションに対する評価とともに、平常の活動実績を総合化して最終評価をします。

[基礎デザイン学科] P211

卒業論文・制作において、本学科での四年間の教育・制作・研究の成果が反映されていることが求められます。個的な関心にとどまらず広く社会に通底するデザインの諸問題を見出し、横断的な視点からの問題解決への提言をおこなうこと、最終的には〈基礎デザイン学〉の理念に基づき、自己再生的な文明に寄与するデザインへの取り組みが期待されます。

[映像学科] P219

3年次の映像表現実習と4年次の卒業制作は指導教員を個々に選んで制作しますが、講評・評価はジャンルの枠を取り払って、指導教員全員によって行っています。それは、映像学科の理念である「全方位的」、「多面的」、そして「総合的」な学習の成果として制作を捉えているからです。特に卒業制作の評価は制作を4年間の学習の集大成として捉えるだけでなく、上記の様な教育理念のもとでは4年次においても多面としての映像ジャンルの重心を移動させることでも可能であり、その場合は卒業制作をその後に繋げる可能性あるいは過程として捉えています。したがって評価の基準は表現のテーマの独自性や技能の完成度だけでなく、映像の領域の実験性や、問題提起の深度も加えています。また映像表現実習と卒業制作以外のすべての科目は4年間をとおして各指導教員の絶対評価によって単位が与えられています。

[芸術文化学科] P237

「アートとデザインによって、如何に社会を活性化できるか」芸術文化学科は、この命題を、基礎的、概念的、実践的、現実的に、あらゆる方面、角度から、研究し、身につける4年間のカリキュラムを計画しています。

そして、自らの方向性、志向性を、自らに尋ね、問いかけ、検証しながら、その方向性に合った、学習と研究を自らプログラムすることを、強くすすめています。それなしに4年間を過ごした場合、就職や進学といった自らの将来のライフ・プロジェクトが明快にならないだけでなく、人生のプロセスにおいて得られる意欲や価値、輝きが軽減されてしまう、と考えます。

[デザイン情報学科] P255

デザイン情報学科に学んだ学生には、正しいデザイナーシップとデザインリテラシーを身につけ、時代を読み解き、課題を発見し、その課題を調査分析して解決策を提案する一連のプロジェクト・デザインを推進することのできる柔軟な理解力と知識、そして自在な表現の技量を兼ね備えた能力を有しているか、総合的な観点から評価します。

なお、学科毎の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は記載の通りであり、明確かつ詳細に設定されているが、さらに、それらを一段上の視点からとらえるべく、造形学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の設定作業を行っている。具体的には、学長室会議及び教務学生生活委員会で検討を行った。今後は教授会でも検討し、今年度中には最終決定する予定である。

造形学部（通信教育課程）

造形学部（通信教育課程）の教育目的は、「武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程」第1条に明記されている（資料4(1)－2）。それらを踏まえ、課程修了にあたって修得すべき学習効果、その達成の為の卒業要件は明確にされ、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が設定されている。通信教育課程 web サイト『通信教育課程の特色』、『学科・コースのご紹介』には以下のように記載されている（資料4(1)－5、資料4(1)－6）。

- (1) 造形文化科目の学習を中心として、諸学問分野や造形の理論と歴史に関する基礎的知識を理解し、それを目的に応じて主体的に活用できるか。
 - (2) 造形総合科目の学習を中心として、造形の諸領域にわたる基礎的な実技能力を獲得し、それを条件の中で創造的な表現として実現できるか。
 - (3) 造形専門科目の学習を中心として、当該領域の知識と技能を体系的に修得し、卒業制作においてそれらを総合的に応用して自らの課題を解決する能力を有しているか。
- 以上の観点を学位授与方針の基準としており、学科ごとの基準については、卒業制作を含む専門科目を中心とした観点を以下に示す。

[油絵学科]

- (1) 美術全体の歴史的な流れや動向を把握するとともに、専攻する領域の成り立ちと今日

の位置、状況を理解しているか。

- (2) それぞれの領域における基本的な材料や技法を習得し、活用する力を備えているか。
- (3) 絵画を成立させている様々な造形要素に対する理解があり、それを実践的に自己の作品制作に生かす力があるか。
- (4) 自分のテーマを発見し、それを表現する独自の方法を探究しているか。

[工芸工業デザイン学科]

- (1) 調査や計画、設計や表示に関する基礎的技術を獲得しているか。
- (2) 材料の特性を活かし、条件や目的に応じた適切な造形表現が行えるか。
- (3) 社会の中から問題を独自に発見し、新規性と客観性を備えたデザインとして提案する能力があるか。

[芸術文化学科]

- (1) 研究テーマを具体化し、それに向けて情報を体系的に収集・整理できるか。
- (2) 先行研究を批判的に検討し、それに基づいて独自の考察を展開できるか。
- (3) 典拠註記等の論文作法を踏まえ、研究の成果を客観的に提示できるか。

[デザイン情報学科]

- (1) さまざまな情報を収集し、広い知識を動員しながら社会的問題を抽出する力やテーマを設定する力が備わっているか。
- (2) テーマに即して表現されたデザインが他者に受け入れられ、設定した問題の解決となっているか。
- (3) 4年間の学習によって獲得した造形的素養を駆使して、情報を発信できるスキルが十分備わっているか。
- (4) 個人の感覚に根ざした表現に独創性があるか。

<3> 大学院造形研究科

大学院造形研究科は、造形学部で培った能力の更なる発展を期するものである。造形学部における一般的・専門的教育の基礎の上に、美術・デザインに関する専門の技能、理論および応用を教授研究し、その深奥を究めた人材を養成し、もって文化の創造・発展に寄与する事を目的としている。

大学院造形研究科（修士課程、博士後期課程）の教育目的は、その設置段階から、「武蔵野美術大学大学院規則」第1条に明記されている（資料4(1)－3）。また、修士課程の各コースでは、理念・教育目標を設定しており、『大学院造形研究科履修要項』に明記している（資料4(1)－7 P19-46）。

それらを踏まえ、課程修了にあたって習得すべき学習効果、その達成の為の卒業要件は明確にされ、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が設定されている。『大学院造形研究科履修要項』には以下のように記載されている（資料4(1)－7 P19-46）。

[美術専攻 日本画コース] P19

本学科では日本独自の文化を背景に現代の多様な価値観のなかで思考し創造できる専門性

を持った表現者の育成を目標としています。

学位が授与されるためには以下のことが求められます。

- 表現に対応した技術を持ち、それを十分に深めているか。
- 自己の表現について主体的に取り組み、論理的にプレゼンテーションできるか。
- 歴史や社会との関わりの中かで自己の表現の意味を考えているか。

[美術専攻 油絵コース] P21

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- 主体的に作品制作に取り組み、美術作家として質の高い独自の表現を身につける。
- 特に近年では、本コース修了生のなかから新世代の優れた美術作家が多数輩出され、さまざまな美術館やギャラリーなどに活躍の場を拓けている。
- 絵画を中心とした美術史・美術理論に幅広い知識を有し、それをふまえた観点から作品制作者としてのみならず、批評性を有した作品鑑賞者としても柔軟に美術をとらえることができる。
- 自らの作品制作を通じて様々な社会状況と有機的な関わりを模索し、美術の世界だけにとどまらず、社会性を持った美術作家としての意識を持つ。

[美術専攻 版画コース] P23

版画の歴史が積み重ねてきた伝統を重視しながらも、同時に、美術としての同時代性を追求する先進的な研究環境のもと、より専門性を深め、表現者としての真の創造性を具現化できたかを第一に問う。

- 明確なテーマ設定の下、個々の問題意識を起点に、独自の視点で表現を深化させる研究が出来たか。
- 個々の作品における表現者としての強度を裏付ける高度な造形力や、専門的な技術・技法が習得されているか。
- 展示を含めて社会との関係性を認識し、創作上の主張が的確に発信されているか。

[美術専攻 彫刻コース] P25

彫刻を基盤とした美術に関わる専門家として優れたオリジナリティを持ち、社会に対して自立して活動できる人材を育成するという目的において、コースにおける最終的な研修成果を問うために、修了制作（公開展示）として次の事項について研究室教員全員で総合的に判断し評価します。

- 表現の独自性が探求されているか。
- 表現における優れた技術が認められるか。
- 自己のテーマに沿った制作の展開が行われたか。
- 表現者として意識を持ち、対外的な発表が積極的に行われたか。

[美術専攻 造形理論・美術史コース] P27

必要な単位を修得し、修士論文を提出し合格したものに学位を与える。課程の大成である

修士論文は、学外からの批評に耐えうる内容となることを目指す。論文は、問題設定の独自性、新知見の有無、検証方法の正当性、史資料の調査能力と分析能力、論述能力などについて、総合的に判断され、評価される。

[美術専攻 芸術文化政策コース] P29

実践的フィールドワークと、文化政策の新しい理論体系づくりを、同時並行でおこなう研究を重視します。グローバルかつローカルな視野を実践的な調査研究で養い、新たな価値観を形成し、発信するための研究、社会における文化芸術の役割を変貌させ、互いの仕組みをよりポジティブに変革させていくための研究を行うことを最終目標とします。

[デザイン専攻 視覚伝達デザインコース] P31

2年間の研究あるいは制作が独自の視点を持ち、社会の批判に耐え得る内容を伴っているかが問われることとなります。デザインの諸領域に対するアプローチの場合、そのアプローチの設定の独自性が問われることになり、デザインを通じて社会に働きかけをするアプローチの場合は、フィールドワークの充実が必須の条件となります。指導教員による評価と修論・制作発表会における外部からの批評を経て修了に対する最終評価が行われます。

[デザイン専攻 工芸工業デザインコース] P33

過去、現在の生活環境のあらゆるデザインをリサーチ、検証し文章等でまとめる。技法、それを取り巻くツール及び多岐にわたる素材の研究。日本と海外のモノ(工芸作品を含む)の流れや考え方がレポートされていること。社会に反映させるべく考察がなされ、各自のデザインしたモノ、作品が現代社会にどのように受け入れられるか、または貢献出来るかどうかの判断が修士論文(作品)として評価されます。

[デザイン専攻 空間演出デザインコース] P35

本学科の特徴を生かした複合的な観点から、研究成果として修了制作の発表を全教員のもとで行い、隣接する各領域からの多角的な批評に加え、優れた表現を前提とした独自性、可能性などを問い、それらを総合的に評価する。

[デザイン専攻 建築コース] P37

理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの修了単位数を満たし、修了制作・研究のテーマと最終成果が批評に耐えうる内容を持っているかを、以下の視点で指導担当教員全員が評価します。

- 制作・研究のテーマがもつ意義
- テーマを展開する際の創造性・独自性
- 制作・研究の完成度

[デザイン専攻 基礎デザインコース] P40

修士制作・論文に、2年間の研究成果が反映されていることが求められます。デザインの問題が発見され、それに対して総合的な視点からの検討がなされ、デザインあるいは研究の成果が知識資源として社会に貢献することを意図していることが求められます。

[デザイン専攻 映像コース] P42

研究・制作は選んだ指導教員と副指導教員で、基本的には個人指導で進めています。講評は映像コースと写真コースの専任全員で行い、評価は指導教員で行っています。1年次の終わりには1年間の研究制作発表があり、2年次の修了制作において最終評価が行われます。その場合、2年間のテーマや手法の継続性や制作物が作品として成立するための技能の完成度や独自性を評価の基準としています。

[デザイン専攻 写真コース] P44

2年間の最終的な成果を問う修了制作を実施し、専任教員が総合的に判断し評価します。評価基準としては、テーマ設定の独自性、表現内容のオリジナリティ、技術的完成度、批評性など。また対外的な発表活動なども評価の対象とします。

[デザイン専攻 デザイン情報学コース] P46

デザイン情報学の可能性を実践的かつ理論的に考究し、「イノベーション」と「クリエイション」という高度情報化社会を牽引する概念を、クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究と経験を拡張するためのデザイン研究において具体的に体现し、また研究者、クリエイターとして、次代を担う国際社会で活躍する高度なデザインの専門性を有しているか、総合的な観点から評価します。

なお、コース毎の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は記載の通りであり、明確かつ詳細に設定されているが、さらに、それらを一段上の視点からとらえるべく、大学院造形研究科修士課程及び大学院造形研究科博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の設定作業を行っている。具体的には、学長室会議及び教務学生生活委員会で検討を行った。今後は研究科委員会でも検討し、今年度中には最終決定する予定である。

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

<1> 大学全体

武蔵野美術大学の造形学部（通学課程）、造形学部（通信教育課程）、大学院造形研究科（修士課程・博士後期課程）のそれぞれの教育課程は、「武蔵野美術大学学則」第2条第2項、「武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程」第2条、「武蔵野美術大学大学院規則」第2条に基づき定められている（資料4(1)-1、資料4(1)-2、資料4(1)-3）。

それぞれの教育課程は、教育目標に基づき編成・実施方針を明示している。

<2> 造形学部（通学課程）

造形学部（通学課程）の教育課程は、「武蔵野美術大学学則」第2条第2項に定める区分（11 学科）に基づき、示されている（資料4(1)-1）。修業年限は「武蔵野美術大学学則」第9条によって4年と定められている（資料4(1)-1）。

造形学部（通学課程）では、全学科共通の教育目標とその展開（カリキュラム・ポリシ

一) を定めており、『履修・学修ガイドブック』に掲載されている(資料4(1)-4 P7)。さらに、学科毎に学科理念・教育目標を定め、同様に『履修・学修ガイドブック』に掲載されている(資料4(1)-4 P88-255)。全学科共通のカリキュラム・ポリシーは、以下のとおりである。

武蔵野美術大学造形学部は、幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家養成とともに、美術とデザインの領域における総合的な造形教育の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論や応用を教授研究し、豊かな美的教養をそなえた社会人を育成する任をも負い、文化の創造発展と社会に貢献することを目的としています。

今日、わが国の高等教育制度は大きな変動期にあり、とりわけ大学では専門領域にのみ埋没することが特性でもあるかのような考え方が一部にあります。造形に関する最も優れた基本教育をめざし、しかも、創造的で多様な造形の新たな可能性を求める本学は、必ずしもそうした姿勢をとっていません。

造形の各分野を専攻するにあたっては、総合的判断力・批判力を養うために広く諸学問を学ぶ[文化総合科目]、造形という大きな視点から専門性の位置づけや基礎を確認するために、自分の専攻とは異なった領域や他学科の開設する授業を学ぶ[造形総合科目]、個々の学科が独自に専門的能力を追求する[学科別科目]の三者をバランスよく統合したところに、真の造形教育が成立すると考えています。

[文化総合科目]は教養文化に関する科目、言語文化に関する科目、身体文化に関する科目、造形文化に関する科目という4つの科目群から構成されています。学生は、定められた条件のもと自由に科目を選択することができ、学生自身が自己の追求する専門領域の基盤を独自のかたちで構築することができます。開講される授業は、横断的な視点を取り入れたものや、段階を追ってテーマを深めていくものなど、より个性的に編成されています。また、既成の領域にとらわれない新しい分野をカバーする科目、国際化や高度情報化社会など、新たな社会システムに対応した科目が用意されていることは言うまでもありません。

[造形総合科目]はすべての学生が、1年次前期から2年次前期にかけて、絵画・彫刻・デザインから専攻と異なった領域を学ぶ[I類必修科目]、他学科・研究室が開設する授業を1年次(5期)に履修する[I類選択必修科目]、年次を問わず各学科が開講する授業(オープン科目)や学科を越えて横断的に専任教員が開講する授業(横断科目)を卒業するまでに選択して履修する[II類科目](うち2単位は選択必修)で構成されています。専門分野の深化とともに、他の分野にも広く目を開き経験することによって、造形という領域を総合的に捉えることを目的とする科目群です。

[学科別科目]は、学科ごとに設置されている科目であり、専門家として欠くことのできない専門的基礎理論・表現方法などの学習から、さらに高度の専門課程へと展開していく科目です。

こうした有機的な科目群の結びつきと展開性は、本学の教育の大きな特徴であり、伝統的に保持してきた教養あふれる豊かな人間性の確立を基盤としたところに優れた芸術が成立するという、教育の基本理念に基づくものです。

平成 21 (2009) 年には、本学の前身である帝国美術大学創立から 80 周年を迎えました。記念事業の一環として開催された「世界美術大学学長サミット」や「デザインシンポジウム」は、本学の教育理念を背景に、各国の美術大学と連携して、これから美術大学が果たすべき役割と責任を担うことを社会に問う試みです。本学と交流のある国内五美大や留学生を迎えている韓国や中国、交流協定を締結している欧米の美術大学との「共同宣言」に調印し、発表しました。このような伝統と環境を有する本学で学び育つ学生諸君こそが、武蔵野美術大学の理念そして造形の持つ力を未来へと繋ぐ大いなる希望であります。

これらの、全学科共通のカリキュラム・ポリシー及び各学科の学科理念・教育目標を踏まえ、学科毎に教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）について定めている。それぞれの学科で、全体（全学年対象）及び学年毎に詳細に定めており、『履修・学修ガイドブック』に掲載されている（資料 4 (1) - 4 P88-255）。全体の記載は以下のとおりである。

〔日本画学科〕 P88-89

1、2 年次では、日本画の素材や技法などの基礎知識を学び、様々な課題に取り組み造形力を養うと共に自身の自由な表現へ向かうために基礎力を養います。3、4 年次は自主性を持って専門性の高いカリキュラムに取り組み、各自の斬新で新しい表現に満ちた創造を目指します。本研究室は学生との対話を重んじ、学生は広く全教員からの指導と講評を受けることができます。

〔油絵学科油絵専攻〕 P99-100

油絵学科油絵専攻では以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- 油絵学科油絵専攻は美術作家をはじめとする広い意味での表現者の育成を目的としているため、基礎課程においても専門課程においても、まず学生自らが主体的に授業に参加できるようにカリキュラムが編成されている。
- 1、2 年次基礎課程においても画一的な基礎を学ぶのではなく、個々の表現に必要な基礎を主体的に学ぶことができるように、選択課題を中心に編成する。カリキュラム全体の流れのなかで設定された授業概要をもとに、美術作家でもある担当教員がそれぞれの特性を反映させた選択課題を設定し、それを学生自らが選び取るところから授業をスタートさせる。
- 3、4 年次専門課程では自由制作を中心としたカリキュラムとし、学生の主体的な興味がすべての始まりになるような自由な環境の中で、制作者としての自覚を養う。
- 本専攻の大きな特徴でもある絵画組成の授業では、基礎課程・専門課程を通じて絵画を物質的にとらえた技法材料を学び、さらに西洋の古典技法などの絵画技法史を学ぶことで、学生それぞれの表現の充実をはかる。
- 通常授業と平行して、フレスコ、テンペラ、モザイク、水彩、立体、映像などの特別授業を「複合表現ゼミ」として設け、特化された技術的な側面から、多角的でより深いスキルを学ぶ。

- 基礎課程における造形総合科目は、専門分野以外の科目を幅広く学び、柔軟に基礎を学ぶ機会を設ける。

[油絵学科版画専攻] P101

版をつくったり、紙に刷ったりする版画の制作過程での様々な体験を通して、新たな表現の可能性に出会い、学生一人一人の個性を再発見することを目指す。1、2年次での体験的な授業を経て、3年次からはより専門的に、銅版・リトグラフ・木版・シルクスクリーンのそれぞれの技法を学びながら、自分に適した版種を選んで主専攻とする。一方で、版種をまたいだ制作や、他の複数メディア表現への展開も可能とする。

[彫刻学科] P134-135

触覚の持つ知覚の根源性と表現の多様性を根本に置き、ひらかれた環境と専門性の追求の両立を目指します。1～2年の基礎過程では素材と対峙することで得られる身体的な思考を培い、基本的な表現技術と課題の設定力、素材と表現を起点とした多様な歴史観を学習します。3年以降は各テーマに従っての制作を行い、同時代そして過去の作品を見る力を養います。学生制作環境をひとつの教室やコースに留まらず、目的により選択出来 多方面から批評を受けられる体制をとります。

[視覚伝達デザイン学科] P146-147

カリキュラムは以下の基本方針によって構成される。

- 1：造形における視覚言語の原理の理解と実践
- 2：複製技術、メディア・リテラシーの習得
- 3：デザイン・プロセス（問題の発見から解決）の実践的理解と開発
- 4：感性・造形・表現能力の高度化
- 5：1～4を統合し、社会に対する情報発信能力の拡張

[工芸工業デザイン学科] P170-171

インダストリアル、インテリア、クラフトの3領域3コースはそれぞれ社会の受け入れ方にかなり違いがあります。しかし工芸工業デザイン学科基本理念には造形感覚、色彩感覚、構成能力、何よりも美意識に於いて共有できるように、基礎実習、基礎演習に力をいれます。

[空間演出デザイン学科] P182-183

本学科の特色である、広範な領域と表現の多様性を活かした実習授業に重きを置きながら、身体を軸に基礎的な造形力や見立てによる空間造形と、その演出法などを学び、2年次には専門領域に至るまでの自由な道りを選択しながら、さまざまなプロセスによる表現の独自性を培う。3年次以降選択での各専門領域に分れ、後半からは更に、各教員のゼミナールにより再度個性豊かな専門性を養う目的である。

[建築学科] P198-199

建築学科では、一年次から四年次まで開設される建築、環境デザインの演習「設計計画」

をカリキュラムの中心としています。1～2年次は全員が共通の課題に取り組む基礎課程、3年次以降はテーマ、ジャンルに分かれた専門課程（スタジオ）に大別されます。

いずれも、用途や条件に応じた空間構成の計画・設計に加え、構想と現実を結びつけて建築設計を理解する原寸制作や、コミュニケーションを鍛える共同制作、実社会との関係の中で設計する地域連携の課題を組み込んでいます。

講義科目は、学生が自身の設計を通じて講義に実感を持ち、設計に方法的、技術的裏付けを得るために、上述の演習「設計計画」と連動するカリキュラムとしています。計画・意匠系と技術系（構造・環境工学）に大別されますが、美術大学の建築学科であるため前者の充実が大きな特徴です。建築形態論、建築意匠、建築デザイン論など建築造形理論に関する科目、環境計画、庭園史、ランドスケープ概論、都市デザインなど環境デザインに関する科目、造形表現を広げる基礎造形、造形演習、写真表現の科目などを開設しています。一級建築士をはじめとする建築士受験に必要な指定科目が開設され、必要な科目および単位数を履修することで受験資格を得られます。

全学的なカリキュラムについていえば、芸術に関する文化総合科目が多数開設され、絵画、彫塑、デザインの実習科目が必修科目であることが、美術大学らしい大きな特色となっています。

[基礎デザイン学科] P210-211

本学科には、その教育目標から専攻コースを設けていませんが、デザイン思考やデザイン方法論の共有基盤をもちながら、段階的にデザインの各問題群に接近し、学生自らが問題やテーマを発見していくように構成されています。全学年を貫く[デザイン論]と2・3年次の[記号論]は学科全体で共有する理論的支柱であり、〈基礎デザイン学〉の大切な基盤となります。また1・2年次の[形態論][色彩論]は、造形の水脈を掘り起こす実践・思考の場で、身体と造形の関係性を講義と演習によって学習します。本学科では専攻コースという明確な区分ではなく、指標となる領域を設け、2年次以降、学生自らの判断によって方向性が定まっていきます。

[ヴィジュアルコミュニケーション]

ダイアグラム、ノーテーション、タイポグラフィなど、視知覚に関わるデザインの基礎と自在な空間表現を実現するための方法論を学びます。

[プロダクト環境]

生活環境を取り巻く社会のありうべきデザインの諸問題を掘り起こし、横断的な視野にたって新たな提案をするための方法論を学びます。

[デザイン理論]

生活を真に豊かにするデザインについての思考を深め、社会のみならず地球環境や生態系をも含めた包括的なデザインのあり方を探求します。

[インフォメーション]

データを収集・編集するだけでなく、「情報」をいま一度新たに捉え直し、認識や経験に基づいたインフォメーションの方法論を学びます。

[映像学科] P218-219

映像学科は、真実を見つめる強い意思の向上を図り、自由かつ大胆で真摯な創造的感性を磨き、美意識の高揚を志して表現の眼を育むことを目的としたカリキュラムを実践しています。それは作品制作と制作指導を教育の基柱にしており、映像という領域のさらに内側にあるジャンルの専門教育を横断することによって、映像表現の総合性を感知し、自らの確信のもとに本来の専門性を獲得するための全方位的なカリキュラムです。

本学科は「映像文化」が言語を超え、国境を超え、民族・宗教をも超えられる「存在」であると認識しています。文化総合科目で学んだ知識や教養を表現行為や行動に変えて、変化する世界の社会状況に対応できる文化創造の担い手となる映像の表現者と映像の真の理解者を育成します。

[芸術文化学科] P236-237

[芸術文化プロデュースコース]

文化芸術支援を担う優秀な人材養成のために、現状の認識と、国際的な比較対照において知識を深め、実践につながる価値観と情報整理のノウハウを学びます。専門的なカルチュラル・スタディーズ、アーツ・リテラシー、キュレーションを通して、美術史、デザイン史、現代芸術論、デザイン論、文化社会論などの理論を深化させ、最先端のミュージオロジーを研究します。文化や芸術が、美術館、マーケット、NPO など、具体的な組織や文化施設を介してどのように機能し、社会貢献を果たしているのかを問いかけ、豊かな生活と心のあり方を求めて、新たな方法論を提案します。

[メディアプランニングコース]

人との、人と情報、人と環境とのつながりを理解し、そこに相互の関係をつくり出していくこと、コミュニケーションの手法をどうつくり出していくかが基本テーマです。メディアを表象文化やコミュニケーションの視点からとらえる理論的研究を基に、編集、メディアプロデュース、広告プランニング、ヴィジュアルデザイン、スペースデザイン、ウェブデザインについて学びます。メディア表現を探求する学生は、先端の技術や方法論を駆使して、社会に向けてコミュニケーションデザインの新しい形を提案していきます。

[デザイン情報学科] P254-255

デザイン情報学科のカリキュラムは、創造と表現を尊重する美術大学という教育環境を十分に活用するとともに、高度化する情報環境や多様化する表現世界に適応するデザイン情報学の基礎となる理論科目と演習科目によって構成されます。それらの科目群は、課題発見に始まる「何を問題とするか」という態度の陶冶を基本とし、デザイン情報学の基幹となるデザインと情報のリテラシーをはじめ、テクノロジー、メディア、社会科学などの関連する諸学問を段階的・複合的に学ぶように構成され、同時に、統合的なデザイン力やプレゼンテーション力を培う多くの機会が準備され、また、教職課程「情報」に対応した科目があります。

造形学部（通信教育課程）

造形学部通信教育課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）については、全体及び学科毎に定められており、通信教育課程 web サイト『通信教育課程の特色』、『学科・コースのご紹介』上に以下のように記載されている（資料4（1）－5、資料4（1）－6）。

通信教育課程は基礎的で総合的な学習と高度で専門的な学習とを実現するため、1-2年次の総合課程と3-4年次の専門課程によって構成されます。

本課程では入学選考にあたって実技試験を科すことなく、それまで美術・デザインの専門的な学習経験を持たない者にも門戸を開放することから、入学後に造形の基礎的な学習を行い、専門的な学習に向けた準備を行う段階を教育課程に位置づけることが不可欠であり、それが総合課程の役割です。総合課程では造形総合科目「造形基礎 I-IV」を1年次の必修科目に設けることによって、造形全般に対する基本的な感覚や態度を養うとともに、すでに造形の専門的な経験を持つ方にとっても柔軟さを回復する機会としています。また、専門課程の各コースに対応した指定科目が造形総合科目として1-2年次に開設され、専門的な学習に向けた準備を系統的に行います。その他の造形総合科目は選択科目として開設され、多分野にわたる学習を実現するとともに学生の多様な学習目的に応えるものとなっています。これらは専門課程においても履修することができ、在学期間を通じて幅広い造形の技能を獲得することができます。

あわせて総合課程では、造形と諸学問分野とをつなぐ造形文化科目を履修します。人文・社会・自然の諸学問分野に関する科目のほか、外国語、健康とスポーツ、造形の理論や歴史に関する科目が選択科目として開設されており、広範な教養の涵養とともに、美術・デザインの幅広い領域にわたる基礎的な知識を獲得する機会となります。これらは専門課程においても履修することができ、在学期間を通じて学習を展開することができます。

専門課程では、総合課程での学習を土台に、4つの学科ごとに開設された造形専門科目を体系的に履修することで、各分野に関する専門的な能力を高めていきます。また、造形文化科目と造形総合科目を選択科目として履修することで、専門的な学習を常に造形の広がりの中で捉え直す機会とします。

授業は通信授業、遠隔授業及び面接授業により行い、各授業科目の目的に応じて授業の方法が定められています。

[油絵学科]

（1・2年次）

1年次に設けられた必修科目「造形基礎 I-IV」は、特定の専門のための基礎ではなく、それに先立つ創造の原初的体験、各人が本来持ちながら日常生活の中で埋没し忘れられがちな創造的可能性や能力を呼び起こし、これからの学習の準備となる点で、油絵学科の学習においても重要な意味を持っています。

造形総合科目には、各コースに進学するのに必要な指定科目として、絵画コースのための「絵画 I・II」、日本画コースのための「日本画 I・II」、版画コースのための「版画 I・II」が開設されています。「絵画 I」「日本画 I」「版画 I」は1年次に配当され、専門科目の入口として基礎知識や基本的な技術、用具の扱い方等を中心に学びます。多彩に用意された選択科目の中でも、1年次の学習をさらに補強する科目として、造形総合科目に「デッサン I」「絵画研究 I」が置かれています。

2年次では各コースの指定科目として「絵画 II」「日本画 II」「版画 II」が設けられ、さらに技法の経験を広げながら専門課程に進むための造形力と感性を養います。またこれらをさら補強する選択科目として造形総合科目に「デッサン II」「絵画研究 II」「デッサン研究」が設けられています。

(3・4年次)

3年次には学科共通科目として「絵画表現 I・II」を設け、線や面、色彩の働きを深く研究する課題により実力を強化します。「絵画 III-V」「日本画 III-V」「版画 III-V」は各コースの必修科目で、それぞれの表現に必要な能力を獲得します。絵画では具象／抽象の志向に即して造形要素や材料、空間等について学び、日本画では様々な支持体や素材による表現の多様さを研究、版画では4版種の基礎技法を習得し版表現を深めます。また、学科共通の選択科目として「複合的表現 I」を開設し、立体作品の制作を通じて現代美術の演習が経験できるよう工夫されています。

4年次は各コース必修科目「絵画 VI・VII」「日本画 VI・VII」「版画 VI・VII」と「卒業制作」で、これまでの学習の集大成であるとともにこれからの展開の出発点とも成りうる作品の制作に取り組みます。卒業制作は学内で展示され、広く一般に公開されます。また、学科共通の選択科目として「複合的表現 II」を開設し、インスタレーションの制作を通して現代美術への理解を深める機会としています。

[工芸工業デザイン学科]

(1・2年次)

1年次は、造形総合科目におけるコース指定科目として、生活環境デザインコースに向けた「プロダクトデザイン I」、スペースデザインコースに向けた「インテリアデザイン I」が開設されています。「プロダクトデザイン I」ではものづくりに共通するデザインプロセスの概要と図面やスケッチによる表現及び立体造形の基本を学習し、「インテリアデザイン I」では学習の対象を住空間として、空間の情報を伝達するための設計製図の基礎から応用までを段階的に修得します。

2年次にも各コース指定科目が置かれ、「プロダクトデザイン II」ではものに対する用途の要求項目や問題を発見する方法、ものづくりのデザインをする上で必要なアイデアの展開と表現方法など一般的なデザインプロセスとデザイン提案を表現する基礎を学習し、「インテリアデザイン II」では空間の観察方法を学び、都市が示す表情と機能を「もの」と「こと」の調査から明らかにすることで人と環境と造形の間を考察します。

(3・4年次)

3年次は、「工芸工業デザイン基礎 I・II」が学科必修科目として位置づけられ、コースの枠を超えて同じ題材に取り組むなど、道具と空間の関係を包括的に捉えて広い視野を獲得する機会としています。製品や都市の調査・解析手法、基本的な造形材料と技法、表現の意味と作用を具体的に学びます。また各コースにおける専門学習の理論的視座を形成する科目を開設し、「生活環境デザイン論」ではデザインの歴史やものづくりの現場への理解を、「スペースデザイン論」では都市の表情からシーンへの展開を通して演出性への理解を深めます。

4年次は、さらに造形表現の能力を蓄えるとともに、デザイン上の問題意識や企画提案能力、他者への伝達能力をいっそう高めていくことに取り組みます。生活環境デザインコースでは「生活環境計画 I・II」「生活環境デザイン研究」で、プロダクトデザインに必要な

な社会的テーマの調査研究と考察・提案力の養成や、クラフトデザインに求められる製品化・商品化に向けた企画力とプレゼンテーション力の獲得をはかります。またスペースデザインコースでは「空間設計Ⅰ・Ⅱ」「スペースデザイン研究」で、商業施設の個性化の可能性や光の演出による意味生成、劇場舞台におけるコミュニケーション作用を学びながら空間表現の能力を身に付けていきます。「卒業制作」では学習の集大成として自らテーマを設定し、調査や分析、考察を踏まえて解決策を探究し、造形表現と一体となったデザイン提案を行います。

[芸術文化学科]

(1・2年次)

1年次は「デザインリサーチⅠ」が芸術文化学科に進学するための指定科目として位置づけられ、身近な事物の調査を通して、造形を狭義の美術に限らない広い視野で捉え直し、私たちと物との関係を客観的に把握し伝える能力を養います。その他の造形文化科目と造形総合科目は選択科目として配当されていますが、特定の領域・技法に偏らないよう美術やデザインの幅広い分野から履修することで、造形行為や作品の意味を深く理解することに繋がります。

2年次は「デザインリサーチⅡ」が指定科目として位置づけられ、日常の生活空間の調査、さらには自身の記憶の中にある空間体験の分析を通して、私たちと場・環境との関係を客観的に把握し伝える能力を養います。その他の造形文化科目と造形総合科目は選択科目として配当されており、1年次と同様の方針でさらに知識や経験を広げる機会とします。

(3・4年次)

3年次は「ミュゼオロジーⅠ」および「編集研究」を芸術文化学科必修科目とし、文献資料の特性と美術館の概論を学ぶことによって専攻の基盤を形成します。造形研究コースでは「造形民俗学」「造形学概論」が、文化支援コースでは「メディア論」「生涯学習概論」がコース必修科目として扱われ、理論的研究と実践的活動という各コースの特性に沿った学習に進みます。これらの科目は他コースにおける選択必修科目として扱われるので、コースの枠をさらに広げる学習に応えるものとなっています。また、3-4年次における選択科目として博物館活動上重要な3つの専門領域に関する科目「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」が開設されています。学生の履歴が多様であることから、学習の題材を各自の生活環境や興味関心と結び付けられるように課題が構成されています。

4年次は、造形研究コースでは「資料情報処理」「媒体組成研究」「造形学研究」が、文化支援コースでは「ミュゼオロジーⅡ」「博物館実習」「文化支援研究」がコース必修科目として扱われ、専門的知見をさらに深めていきます。「卒業制作」は芸術文化学科必修科目として、研究論文の作成に取り組みます。これまでの学習を踏まえながらもそれにとらわれることなく、学生各自のテーマ設定に基づいた芸術文化上の課題を探究することで、自らの問題意識を問い直し、題材に関する理解を深め、それを他者に成果として提示する作業に取り組むことによって、芸術文化学科における学習の仕上げとします。

[デザイン情報学科]

(1・2年次)

デザイン情報学科には、グラフィックデザインを中心にメディアによる表現を学ぶコミュニケーションデザインコースと、コンピュータなどのテクノロジーと表現を繋ぐデザイ

ンを研究するデザインシステムコースがあります。コミュニケーションデザインコース指定科目「グラフィックデザイン基礎 I・II」は、色のシステムの課題から始まり、さらに形の意味を理解することにより、色と形が織りなす意味の形成について学びます。またアイデアをコンピュータを使って表現できるスキルや文字、写真、ダイアグラム、広告的ヴィジュアル表現などの課題を通して、形成された情報が的確に共感と理解を生むメカニズムを体得することが、コミュニケーションデザインコースの基礎的素養となります。

デザインシステムコース指定科目「情報システム基礎 I・II」では、情報システムについて理解するところから始まり、それが生活においてどのような役割を担っているか、コンピュータがどのような処理を行っているのかを理解することからデザインのアルゴリズムを学んでいきます。またハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの基礎的な知識を身につけた上、実際にプログラミングを経験することで、情報システムについての理解を深め、コンピュータやネットワークを介したコミュニケーションのあり方について考察、提案できる素地を学習します。

(3・4年次)

3年次の学科共通科目「メディア環境論」では既存のメディアから離れ、新たなメディアの可能性を自由な発想から考えます。また「マルチメディア表現」では、メディアをコンピュータに限定し、マルチメディアによる問題解決が人々の生活に何を実現できるのかを考えます。

コミュニケーションデザインコースには二つの柱があります。ひとつは「コミュニケーション研究 I・II」で、リサーチなどを通じて社会の実態を理解し、グラフィックデザインの知識や技能をベースに、ワークショップなどを導入しながら、インタラクティブなコミュニケーションをプロデュースする生きたデザインを実践します。もうひとつの柱が「イメージ編集 I・II」で色や形、文字や写真などの要素を編集し、総合的なメディアとして完成する力を研究という領域まで発展させる科目です。さらに「ヒト」「モノ」「コト」に注目し、新しい視覚表現の可能性を研究する「グラフィックデザイン I・II」が選択科目として用意されています。

デザインシステムコースでは、インターネット上に無数に散らばるビッグデータについての理解を深めるための科目「情報通信ネットワーク」「データベース」があり、ユーザーが直接触れるインターフェイスでなく、より深い部分からデザインに関する問題提起や提案を行うための力を身につけます。また画像を用いた人間と人間、人間とコンピュータにおけるコミュニケーションについて考えていく「画像表現研究」があります。これらによって、広くアルゴリズム的なデザインの思考を身につけることをめざしています。さらに「デザインシステム研究」では、それまでに学んできた以外の専門分野を扱うことで、広い観点から発想するための力を蓄えます。

両コースとも4年次は集大成である卒業制作に取り組み、デザインの基礎となる技能と知識を、自らが設定したテーマに生かしながら、総合的に情報発信できる作品の実現をめざします。

〈3〉 大学院造形研究科

大学院造形研究科の教育課程は、武蔵野美術大学学則第2条において博士課程と規定している(資料4(1)-1)。また、第2条2項及び3項で、これを前期2年と後期3年の課程に区分し、前期2年の課程を「修士課程」、後期3年の課程を「博士後期課程」として取

り扱うと定めている(資料4(1)-1)。また、大学院規則第3条に定める区分(1研究科)に基づき博士前期課程(修士課程)として2専攻、(博士後期課)として1専攻を置くことが定められている(資料4(1)-3)。

修士課程は、美術専攻6コース、デザイン専攻8コースの全14コースが開設されており、これらは、造形学部(通学課程)の学科を基礎としているため、学科同様、コース毎に理念・教育目標を定め、『大学院造形研究科履修要項』に掲載されている(資料4(1)-7 P19-47)。これを踏まえ、コース毎の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)について定めており、『大学院造形研究科履修要項』に以下のとおり掲載されている(資料4(1)-7 P19-47)。

[美術専攻 日本画コース] P19

歴史や社会との関わりのなかで自己の表現を論理的に考えることで意識を深め、それに基づいた課題を設定し自主的に取り組みます。

表現への意識を深め、制作、発表を通して表現者として活動して行くために必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

[美術専攻 油絵コース] P21

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、学生の主体的で自由な制作を最大限に活かせるようにカリキュラムを編成しています。美術作家の養成を明確な目的とした本コースでは、在学中から学生という立場を超えて、ひとりの美術作家として自らの作品制作・研究を行う意識を養うことが最も重視されます。そのため大学院1年次では「絵画研究Ⅰ」、2年次では「絵画研究Ⅱ」というように課題をシンプルに編成し、学生のさまざまな制作スタイルに柔軟に対応できるように配慮されています。そのなかで学生たちは、担当教員を中心にさまざまな教員や周りの学生たちとの対話のなかから作品制作の具体的な方向性を模索し、美術史や社会状況をふまえた深い思考による研究の機会を持ちます。またカリキュラムにかかわらず、活躍中の美術作家や美術批評家、学芸員などの外部からの特別講師などによる直接指導が随時行われ、学生の制作・研究をサポートしていきます。

[美術専攻 版画コース] P23

全体

より専門的に、銅版・リトグラフ・木版・シルクスクリーンなどの主専攻とする技法による表現を研究しながら、必要に応じて版種をまたいだ制作や他の複数メディア表現への展開も可能とする。

1年次

各工房において、より高度な専門性を追求しながら、自由なテーマのもと制作を進める。

2年次

真摯に修了制作に取り組み、版画の新しい地平を切り開くような意欲溢れた高度な水準の作品制作を実践する。

[美術専攻 彫刻コース] P25

彫刻コースの研究課程は段階的な指導を踏むわけではなく、対外的な発表を含めた各自の

制作計画を前提とします。各自の研究テーマに従った専門性・独自性の追求が核となりますが、それ以上に 作品を成り立たせている基盤を問う事を主眼とした指導を行います。2年間を通じての計画概要とは、そのための方法論、技術、メディアの追求、作品と社会を関わる手段の考察、自己の作品に対する批判的な展開の可能性、等について客員教授を含めた美術批評等様々な他領域との複合的な批評を行います。

[美術専攻 造形理論・美術史コース] P27

本コースの理念・教育目標に従い、総合的かつ専門的な学修が可能なカリキュラムを編成する。美術史学の課題は、伝存する作品ないし現代の作品を調査分析して、美術の歴史的展開を明らかにすることである。印象のみによる独白は求められない。図像学の手法による場合でも、意味論に傾き過ぎることなく、作品の質を問題にする。眼の記憶を豊かにし、各々の目の判断力を伸ばすために、授業とともに美術館、博物館、修復工房などの見学、古美術研究旅行を行っている。担当教員だけでなく、演習発表を通して複数の教員が指導にあたり、広い視野から問題を検証する。

[美術専攻 芸術文化政策コース] P29

社会と文化を結ぶ領域でのさまざまな活動と政策のあり方、美術館・博物館をはじめとしたさまざまな文化施設、企業メセナや自主的なNPOやNGOなどの活動の展開、さらには、政府や自治体によるガヴァメント・ポリシーとしての文化政策の歴史と現状を学びます。さらには、美術史、デザイン史、現代芸術論、芸術社会学などの知見を基盤にして、比較文化と比較文明学の方法論を取り入れながら、新しい文化プロデュースと、文化政策のビジョン策定とマネジメントの方法論を研究します。

[デザイン専攻 視覚伝達デザインコース] P31

大学院教育で視覚伝達デザインコース入学者全員に必須とされているのは

- (1) 全ての視覚的な媒体の分析の基本として視覚記号論を学ぶ。
- (2) 情報に対する創造的なりサーチと分析、編集、統合（視覚的シンタックス）手法の学習。
- (3) 生態学的知覚論と心理学を軸とした学際領域の地検の習得。
- (4) 国際的なデザイン領域を学び、新たなソーシャルデザインの可能性の発見。

共通必修と並行して1年次から専任教員が主査として、入学者の学習目的にあわせて徹底した専門教育を行い、修士論文または修士制作に繋げていきます。必要な場合、副査指導教員として学内外の専門家を招聘することもあります。

[デザイン専攻 工芸工業デザインコース] P33

プロダクトデザイン系では1年次ではこれまでのモノ作りのあり方、また既存のデザインについて検証すること、日本と海外のモノの流れや考え方を分析し2年次ではさらに論評を加え各自の研究分野の方向性を専門教員と探って行きます。クラフトデザインでは日本独自の工芸研究を含め、高度な技術や表現方法を身につけ思考の熟成を促し習作を重ねさらに文章化すること、2年次では社会に還元できるモノ作りの姿勢を探求し、文化を牽引

する表現を視野に入れ、作品制作を重く位置付けます。

[デザイン専攻 空間演出デザインコース] P35

2年間の研究計画の間、指名制による教員とのプログラム作成をもとに、随時必要に応じた多彩な専門分野からの教員による複合的な指導も可能であり、方法論だけではなく高度な技術的指導もプロセスに加えながら、領域間を自在に往来出来る体勢での指導を行う。

[デザイン専攻 建築コース] P37

建築コースの研究過程は、自身の研究テーマを着実に段階的に展開・深化させるため、スタジオ制教育（少人数での特論・演習・実習）が中心となります。指導教員によって、分野およびテーマ展開の方向性が異なります。

1年次における客員教授による設計演習は、コース全体で実施される科目で、現代の生活環境を反映した課題が出され、構想から詳細なデザインまで一貫した視点を提示することが求められます。

一級建築士受験に必要な指定科目が開設され、必要な科目および単位数を履修することで受験資格を得られます。

[デザイン専攻 基礎デザインコース] P40

2年間を通して、デザイン論特論を必修としています。その特徴は、デザインと美術に通底する造形の問題を歴史的な視点から批判的に検討することと、哲学と科学の方法論を記号論を中心として学ぶことにより総合的な視点を獲得することです。

デザイン理論演習では、専任教員により、以下のような専門的な指導を行います。

- コミュニケーション・デザインの手法
- デザインと科学を架橋する視点からの造形
- 生活におけるデザインの源泉としての「美」や「魅力」の実証的な研究とデザイン
- 表現の生成や構造に関する研究
- 造形（形態と色彩）の水脈を探る思想と理論
- インタラクションに基づくデザイン

[デザイン専攻 映像コース] P42

本コースのカリキュラムは、学部で学んだ映像制作に必要な4つの言葉（映像、言語、音、造形）を自由に操る理論と技術をさらに高め、それらを用いて「自らの心と価値観」を表現することを学ぶ過程で、自己の成長を目指し、教員との自由な討論の場を自ら創り、そこから新しい表現の方法や可能性を探るための過程です。

急速に進むグローバル化やこれから起こりえる様々な社会変化、技術革新、パラダイムシフトに対応できる幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断力を有する映像の研究者・表現者を養成します。

[デザイン専攻 写真コース] P44

写真が発明されてから今日までの道筋を写真史、美術史の両極から包括的に捉えながら学

習、研究すると共に、時代の流れの中における個々の創作活動の立脚点を探り出し、独自の研究テーマを確立するための指導を行う。また、専任教員が主査として学生と深く関わり、個々の研究テーマに従って徹底した技術指導、表現指導を行う。合わせて、対社会を意識した展覧会活動、批評活動、他の映像領域との複合的表現の指導等、修士制作に向けて高度な学習指導を行います。

[デザイン専攻 デザイン情報学コース] P46

ふたつのコアとなる専門領域「クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究〈Practical Study on Creative Leadership〉」と「経験を拡張するためのデザイン研究〈Design Practice for Augmented Experience〉」および、その基礎となるデザイン思考と理論によってカリキュラムが構成されています。

●「クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究〈Practical Study on Creative Leadership〉」は、デザイン効用論をベースに、知的活動を行なう企業や社会組織で取り組むデザイン・プロジェクトにおける新しいカタチでのリーダーシップを育成するための実践的な研究です。デザイン活動の主体であるヒューマンリソースに関して、いかに既存の領域概念を打破し、新しい諸領域のインタラクションを実現するか。プロジェクトベースの実践体験や事例研究を通して、グローバルな視点や異文化コミュニケーションとコラボレーション能力を育み、より高度な創造的リーダーシップを育成する取り組みです。

●「経験を拡張するためのデザイン研究〈Design Practice for Augmented Experience〉」は、ネットワークコミュニケーションやITによる経験拡張技術の進歩とデザイン思考を組み合わせた取り組みです。ますます高度化する情報環境における私たちの経験を拡張する新たなデバイスやアプリケーションをデザイン研究し提案する試みです。情報科学や感性工学的な手法を活用して、美術大学という環境の特性を生かし、造形表現力を基盤とした新しい経験拡張のメディア表現やデザインの可能性を開拓します。

●基礎となるデザイン思考とその理論

ふたつのコア領域を生かす経営資源マネジメントの視点からのイノベーション力の陶冶も視野に入れたデザイン情報学を確立するための基礎理論および方法論、創造的プロジェクトの企画推進マネジメントおよび創発的組織運営の方法論、コンセプト・デザインング手法による経営資源マネジメントなどのデザイン思考と基礎理論を学びます。

なお、コース毎の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は記載の通りであり、明確かつ詳細に設定されているが、さらに、それらを一段上の視点からとらえるべく、大学院造形研究科修士課程及び大学院造形研究科博士後期課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の設定作業を行っている。具体的には、学長室会議及び教務学生生活委員会で検討を行った。今後は研究科委員会でも検討し、今年度中には最終決定する予定である。

(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

〈1〉 大学全体

本学では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について、教授会や研究科委員会、カリキュラム委員会などで、検討して承認している。

学内外の公表について、web サイト『建学の精神・教育理念』、『学部学科・大学院』、『履修概要公開』、通信教育課程 web サイト『通信教育課程の特色』、『学科・コースのご紹介』等で広く周知・公表しており（資料4(1)－8、資料4(1)－9、資料4(1)－10、4(1)－5、4(1)－6）、さらに学生に対しては『履修・学修ガイドブック』、『大学院造形研究科履修要項』、オリエンテーションにより、周知徹底している（資料4(1)－4 P7, P88-255、資料4(1)－7 P5, P19-47）。

教職員に対しては、各種委員会資料や学生向け資料の配付、web サイト『建学の精神・教育理念』、『学部学科・大学院』、『履修概要公開』、通信教育課程 web サイト『通信教育課程の特色』、『学科・コースのご紹介』、学内グループウェアでの回覧にて公表している（資料4(1)－8、資料4(1)－9、資料4(1)－10、4(1)－5、4(1)－6）。

また、2009（平成21）年に本学の前身である帝国美術大学創立から80周年を迎えた際に、世界の美術大学とともに発表した、『世界美術大学学長サミット東京宣言』も公表している（資料4(1)－11）。

〈2〉 造形学部（通学課程）

造形学部（通学課程）は、11学科より成り立っている。11学科とも特色があるため『履修・学修ガイドブック』、web サイト『学部学科・大学院』、『履修概要公開』等において、学科毎の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を公表し、学内外に広く周知している（資料4(1)－4 P7, P88-255、資料4(1)－9、資料4(1)－10）。同様に、各学科の単位表や造形専門科目の教育課程表も『履修・学修ガイドブック』やweb サイト『履修概要公開』で示し、周知している（資料4(1)－4、資料4(1)－10）。さらに、web サイト『履修概要公開』の項目の中で、本学の学位規則を公表している（資料4(1)－10）。

学生に対しては、毎年、『履修・学修ガイドブック』や『履修登録の手引き 履修科目時間割一覧表』を配布している（資料4(1)－4、資料4(1)－12）。『履修・学修ガイドブック』には、学科毎に、学科理念・教育目標、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが記述されている（資料4(1)－4 P88-255）。また、各学科においては、学年ごとにオリエンテーションを開催して、学生に教育課程の編成・実施方針の理解の徹底を図っている。新入生については、入学式後に数日かけて、学科毎に担当教員からのオリエンテーションの他、教務課事務職員によるオリエンテーション、新入生履修相談や外国語履修アドバイスを行って、教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について理解する機会を設けている。なお、3年次編入や途中で転科した学生に対しても、特別にオリエンテーションを開催して、学科毎の特色ある教育課程の編成・実施方針について、説明している。

造形学部（通信教育課程）

造形学部（通信教育課程）は、4学科9コースより成り立っている。各学科の教育目標・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）については、通信教育課程教務委員会において学内に周知するとともに、通信教育課程 web サイト『通信教育課程の特色』、『学科・コースのご紹介』上で公表されている（資料4(1)－5、資料4(1)－6）。教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）についても、通信教育課程 web サイト『通信教育課程の特色』、『学科・コースのご紹介』を通じて広く公開し、入学前の志願者への働きかけを行っている（資料4(1)－5、資料4(1)－6）。

また、近年「新入生オリエンテーション」を実施し、教育課程の編成・実施方針についての理解を深めるよう、機会を設けている。

〈3〉 大学院造形研究科

修士課程は、美術専攻に6コース、デザイン専攻に8コース、全14コースより成り立っている。造形学部（通学課程）の学科を基礎としており、それぞれ特色があるため『大学院造形研究科履修要項』、web サイト『大学院造形研究科』、『履修概要公開』等において、コース毎の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を公表し、学内外に広く周知している（資料4(1)－7 P5, P19-47、資料4(1)－13、資料4(1)－10）。同様に、各コースの単位表や授業科目・担当教員一覧、時間割、造形専門科目の教育課程表も『大学院造形研究科履修要項』やweb サイト『履修概要公開』で示し、周知している（資料4(1)－7 P14-18、資料4(1)－10）。また、web サイト『履修概要公開』の項目の中で、本学の学位規則を公表している（資料4(1)－10）。

学生に対しては、毎年、『大学院造形研究科履修要項』や『履修登録の手引き 履修科目時間割一覧表』、博士後期課程の学生にはさらに『大学院造形研究科博士後期課程運営の手引』を配付している（資料4(1)－7、資料4(1)－12、資料4(1)－14）。『大学院造形研究科履修要項』には、修士課程のコース毎に、理念・教育目標、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが記述されている（資料4(1)－7 P19-47）。

新入生については、入学式後に数日かけて、コース毎に担当教員からのオリエンテーションの他、教務課事務職員によるオリエンテーションを行って、教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について理解する機会を設けている。

博士後期課程の学生には、大学院博士課程事務室を設置している。事務室を設置し、専門の常勤職員を配置することにより、領域の枠を超えて制作や研究をする学生の対応に当たっている。

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

〈1〉 大学全体

造形学部及び大学院造形研究科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

は、専門に検討する委員会等を立ち上げ、武蔵野美術大学全体の理念と目標との整合性に注意を払いつつ、不断に検証を行ってきた。

また、本学では教職員が参加する全学的な研修会を年1回実施しているが、こうした場でも、「本学における教育課程研究の到達点と課題」(1998(平成10)年度)、「学科を越えた新カリキュラム構想に」(2001(平成13)年度)などのテーマでカリキュラム改革に向けた検討が重ねられた(資料4(1)-15、資料4(1)-16)。

<2> 造形学部(通学課程)

教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、武蔵野美術大学全体の理念と目標との整合性に注意を払いつつ、不断に検証を行なっている。「人間的自由に達するために美術・デザインを追求すること」の更なる実現を目指して進められたカリキュラム改革は2003(平成15)年度より実施された。このカリキュラム改革は、教育課程検討委員会(1990(平成2)年11月~1995(平成7)年10月)の中間答申(1992(平成4)年5月)において「開かれたカリキュラム」「弾力性のあるカリキュラム」の必要性が提起されたことをもとに、将来構想委員会(1999(平成11)年6月~2003(平成15)年11月)の専門委員会である教育課程検討専門委員会(1999(平成11)年10月~2003(平成15)年10月)を中心として検討が重ねられ、将来構想委員会中間答申「学科を超えた新カリキュラム構想について」(2002(平成14)年2月)で示された案をもとに実施されたものである(資料4(1)-17、資料4(1)-18)。

造形学部(通信教育課程)

教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、2013(平成25)年度5月に定められたため、まだ直後という理由で適切性についての検証は行われていない。これを定期的に検証するための組織作りが今後の要検討事項である。

<3> 大学院造形研究科

教育目標、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、武蔵野美術大学全体の理念と目標との整合性に注意を払いつつ、不断に検証を行なっている。

博士後期課程については、博士後期課程運営委員会を毎月開催することで、定期的に検証を行える体制になっているが、修士課程については、各コースが学科研究室を母体に構成されており、その学科研究室での検討が基本となっている。

2. 点検・評価

- 基準4 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成、実施方針の充足状況
自己点検・評価の結果、別紙資料「大学評価における評価の視点・評価基準等」のお

り、同基準をおおむね充足している（資料4(1)-19 P6）。

①効果が上がっている事項

<1> 大学全体

本学の理念は、『武蔵野美術大学学則』、『大学案内』、web サイト『教育理念』で公開されており、『武蔵野美術大学のあゆみ 1929-2009』、『武蔵野美術大学六〇年史』等、機会があるたびに掲載されている（資料4(1)-1、資料4(1)-8、資料4(1)-20 P9、資料4(1)-21 P8-10、資料4(1)-22 P22）。大学史史料室では、資料の整理と『武蔵野美術大学大学年報』等の発刊をおこなっている（資料4(1)-23）。本学の理念は、本学の構成員ばかりでなく、学外者に対しても周知されるよう意図されており、また、そのためのメディアも出版物ばかりでなく、インターネット等を活用し、アクセスしやすいものに展開されている。

②改善すべき事項

<1> 大学院造形研究科

教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、武蔵野美術大学全体の理念と目標との整合性に注意を払いつつ、不断に検証を行なっている。カリキュラム委員会他、必要に応じて委員会を立ち上げ、全学的な組織として検証しているが、造形学部（通学課程）の検証が中心となっている。修士課程については、2012（平成24）年度に、教学執行部の構成員である学長補佐や教務部長が、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の見直しについて各教育単位に依頼し、検証を行ったが、定期的に検証を行う組織を設けるまでには至っていない。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

<1> 大学全体

大学の理念・目的およびその適切性は、今日の状況においては、大学をとりまく社会的、国際的な、大学の外からの観点から検証される必要がある。本学は、国際部を設置するとともに、早くからヨーロッパにおける主要な美術大学と学生の交換をはじめとする交流をし、今日ではこの交流はアメリカやアジアの多くの大学に及んでおり、これらの交流を通して、本学の教育理念が比較され検証されている。さらに、2004（平成16）年には産官学共同研究を推進するために研究支援センターを設置し、本学の教育研究がこの観点からも顧みられることになった。

このように、本学の理念・目的・目標は、社会的、国際的な観点から検証されている。2009（平成21）年には80周年を迎え、記念事業の一環として「世界美術大学サミット」や「デザインシンポジウム」を開催したが、これも本学の教育理念を背景に、各国の美術大学と連携して、これから美術大学が果たすべき役割と責任を担うことを社会に問う試みで

あった。このような試みを行うことで将来に向けた発展を図っていききたい。

②改善すべき事項

〈1〉 大学院造形研究科

本学は、カリキュラム委員会等、必要に応じて委員会を立ち上げ、教育目標、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）等を定期的に検証する制度が根付いているが、造形学部（通学課程）を中心としたものになりがちである。修士課程も検証を行っているが、制度としては未熟であるため、今後は委員会等で定期的に検討する仕組みが必要である。

4. 根拠資料

- 4(1)-1 武蔵野美術大学学則
- 4(1)-2 武蔵野美術大学造形学部通信教育課程規程
- 4(1)-3 武蔵野美術大学大学院規則
- 4(1)-4 2014(平成26)年度 武蔵野美術大学履修・学修ガイドブック
 - P7 教育目標とその展開（カリキュラム・ポリシー）
 - P88-89 日本画学科
 - P98-101 油絵学科
 - P134-135 彫刻学科
 - P146-147 視覚伝達デザイン学科
 - P170-171 工芸工業デザイン学科
 - P182-183 空間演出デザイン学科
 - P198-199 建築学科
 - P210-211 基礎デザイン学科
 - P218-219 映像学科
 - P236-237 芸術文化学科
 - P254-255 デザイン情報学科
- 4(1)-5 武蔵野美術大学通信教育課程 web サイト
(通信教育課程の特色：<http://cc.musabi.ac.jp/about/cc>)
- 4(1)-6 武蔵野美術大学通信教育課程 web サイト
(学科・コースのご紹介：<http://cc.musabi.ac.jp/about/department>)
- 4(1)-7 2014(平成26)年度 武蔵野美術大学大学院造形研究科履修要項
 - P5 大学院の教育目標
 - P14-15 造形研究科博士前期課程（修士課程）/単位表
 - P16-17 授業科目・担当教員一覧
 - P18 時間割
 - P19-30 美術専攻
 - P31-47 デザイン専攻
 - P50-51 博士後期課程
- 4(1)-8 武蔵野美術大学 web サイト

(建学の精神・教育理念：<http://www.musabi.ac.jp/outline/about/philosophy/>)

4(1)－9 武蔵野美術大学 web サイト

(学部学科・大学院：<http://www.musabi.ac.jp/course/>)

(造形学部学科別教育理念・目標と3つのポリシー)

- ・日本画学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/jp/policy/>
- ・油絵学科[油絵専攻]：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/pa/policy/>
- ・油絵学科[版画専攻]：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/pm/policy/>
- ・彫刻学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/scp/policy/>
- ・視覚伝達デザイン学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/vcd/policy/>
- ・工芸工業デザイン学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/iic/policy/>
- ・空間演出デザイン学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/sdf/policy/>
- ・建築学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/arc/policy/>
- ・基礎デザイン学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/scd/policy/>
- ・映像学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/ias/policy/>
- ・芸術文化学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/apm/policy/>
- ・デザイン情報学科：<http://www.musabi.ac.jp/course/undergraduate/di/policy/>

4(1)－10 武蔵野美術大学 web サイト

(履修概要公開：<http://www.musabi.ac.jp/outline/disclose/guide/>)

4(1)－11 武蔵野美術大学 web サイト (世界美術大学学長サミット東京宣言：

<http://www.musabi.ac.jp/outline/80th/cultural/summit/>)

4(1)－12 2014(平成26)年度 履修登録の手引き 履修科目時間割一覧表

4(1)－13 武蔵野美術大学 web サイト

(大学院造形研究科：<http://www.musabi.ac.jp/course/graduate/>)

(各専攻コース別理念・教育目標)

- ・修士課程美術専攻：<http://www.musabi.ac.jp/course/graduate/master/art/>
- ・修士課程デザイン専攻：<http://www.musabi.ac.jp/course/graduate/master/design/>

4(1)－14 2014(平成26)年度 武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程運営の手引き

4(1)－15 1998(平成10)年度 全学研修会資料

4(1)－16 2001(平成13)年度 全学研修会資料

4(1)－17 教育課程検討委員会中間答申

4(1)－18 将来構想委員会中間答申

4(1)－19 2014(平成26)年度 大学評価における評価の視点・評価基準等 P6

4(1)－20 2014(平成26)年度 武蔵野美術大学大学案内 P9 建学の精神と教育理念

4(1)－21 武蔵野美術大学のあゆみ 1929-2009

P8-10 帝国美術学校の創立と建学の精神

4(1)－22 武蔵野美術大学六〇年史

P22 帝国美術学校の創立－美術教育の理想を求めて

4(1)－23 武蔵野美術大学年報 (2008-2010)